「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Winter 2020

Vol.28

特集

飯田の中学生が人形浄瑠璃のふるさとへ 南あわじ市と伝統人形芝居で交流

Chiyoko

Dogushi Vol.28 2020年1月発行 発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会

制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp

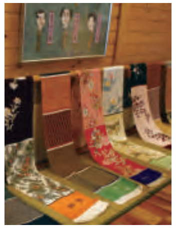
掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

オトナのための人形劇講座 Vol.3

精密機器とからくり人形

地域の伝統文化や地場産業と、人形芝居の結びつきを学ぶ大人向けの講座を開催します。「酒」「染・織」に続く第三弾は「精密機器」に焦点を当てました。精密機器の話から人形のからくり、竹田人形座竹の子会の上演と充実の内容で、オトナの知的好奇心をくすぐります。

Vol.1「酒」



Vol.2「染・織」

●日　時／3月7日(土) 13:30開演
●会　場／多摩川精機株式会社 本社 第1事業所
●料　金／1,000円
●問合せ／☎050-3583-3594 いいだ人形劇センター

Dogushi

並木さんぽ

いいだ人形劇センターが市民向けの人形劇講座を始めて6年。最初の年こそ1団体の参加でしたが、その後、数は多くないものの毎年のように参加者が集まるようになりました。なかには遠方から数時間かけて飯田へ通ってくるグループも。そして、講座終了後もいろんな場所で上演を続けている劇団が複数あります。どこかで見かけたらぜひ観劇してください。

次号は4月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子

View of IIDA

初春恒例となった竹田扇之助記念国際糸操り人形館での人形劇公演。ことしは竹田人形座竹の子会が一年かけて制作した『血脈の印』を初披露。糸操り人形ならではの演出に観客は釘づけでした。

第8回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

トゥルナイ市【ベルギー】

ベルギー南部、フランス語を主要言語とするワロン地域の人口7万人ほどのまち、トゥルナイ。12世紀の「ノートルダム大聖堂」のそびえるこの地は古代ローマ時代以来の拠点の1つであり、西ヨーロッパの歴史を凝縮したような場所です。19世紀にポリジネル(プルチネッラに似た人形劇)の一座がやって来たことで人形劇が始まったといわれるこのまちには現在「ワロン・ブリュッセル人形劇センター」があり、様々な活動を行っています。特筆すべきは人形コレクション。博物館には世界中から集められた2,500体の人形が展示されており、その中には文楽人形まであります。ヨーロッパの古都を舞台に日本の文楽人形。一度見てみたいですね。

トゥルナイ市の中心部にある人形劇センター

特集

飯田の中学生が人形浄瑠璃のふるさとへ
南あわじ市と伝統人形芝居で交流

伝統人形芝居「人形浄瑠璃」の継承に取り組んでいる
飯田市の竜峡中学校今田人形座と高陵中学校黒田人形部の生徒19人が、
12月14日・15日の日程で人形浄瑠璃のふるさと「南あわじ市」を訪ねました。

えびす様と一緒に写真を撮ると宝くじが当たる？過去に8人が当たり、最高額は1億円だそうです。不治の病が治った人もいるとか…

人形浄瑠璃がつなぐ心と心「伝統人形芝居を通じた南あわじ市との交流」

■飯田文化会館 人形劇のまちづくり係 田中宏樹

兵庫県南あわじ市は、淡路島の最南端にあり、500年の伝統がある淡路人形浄瑠璃を今に伝える人口約4万7千人の山と海に囲まれた自然豊かなまちです。飯田下伊那に伝わる人形浄瑠璃の伝来元であり、まちの中には人形浄瑠璃を題材にした看板やモニュメントがあちこちにあります。

この交流は、2018年に南あわじ市がAVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）に加盟したことがきっかけとなり、飯田文化会館と南あわじ市教育委員会で今年度初めて企画しました。

1日目 淡路人形座見学・意見交換

淡路人形座は淡路人形浄瑠璃を継承するプロ団体です。劇場は人形浄瑠璃専門の舞台となっていて約200席があります。生徒たちはまず「えびす舞」「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」を観劇し、人形を動かしているのではなく「人形が動いている」、そんな迫力ある上演にとても刺激を受けました。上演後は特別に舞台裏見学をさせていただき、その後は生徒からの質問に答えるという形で意見交換しました。「若い頃は稽古が厳しくて毎日やめようと思っていたけれど、芸のレベルが上がってくることによってこの道しかないのかなと思えるようになった。10年20年で結果が出る世界ではないので大変苦労した。今はそうでもないけれど」という言葉に、一人前になることの大変さを感じました。

まちの中にたつ看板

裃をつけて太夫座に。ちょっとだけプロになった気分？

うずしおクルーズで感動の体験もしました

郷土部の皆さんによる「生写朝顔日記 大井川の段」

三原中学校郷土部の皆さんが普段稽古している「錬成場」に掲げられています

南あわじ市の守本憲弘市長があいさつに来てくれました

2日目 三原中学校郷土部の皆さんとの交流

三原中学校では、各学校の活動紹介、郷土部の皆さんによる上演を観劇した後、三味線、太夫、人形遣いのパートに分かれ、月に3～4回指導に入っている淡路人形座の吉田徳蔵さん、鶴澤友勇さんが実技指導をしてくれました。生徒たちは操る人形の違いや普段の練習方法について楽しくわかりやすく習いました。三原中学校の生徒は「同じように人形浄瑠璃に魅力を感じている中学生がいることが分かり、これからのやる気につながった」と話し、飯田の生徒は「三原中学校の上演は迫力があって心に残った。自分たちももっと頑張ろうと感じた」と話してくれました。

それぞれのパートでしっかり教えていただきました。帰ってからもしっかり稽古しましょう!

この交流では、ねらいとして「地域に伝わる人形浄瑠璃を保存、継承する意識を持つ」「黒田人形、今田人形の歴史を知り、愛着と誇りを深める」「将来に向けての仲間づくり」を掲げて行いました。生徒から「将来は人形座に関りたい」「自分はもっと上手になれると思った」という交流を通して成長を感じる感想も聞かれ、地域の伝統を継承し、そして次の世代に伝えていく担い手としての意識を育むことができたのでは、と感じました。

舞台芸術アカデミーの建物。演劇・音楽・ダンス・映画・映像などを学ぶことができる

海外レポート

ブラティスラヴァの舞台芸術アカデミー【スロバキア】

※ブラチスラバ、ブラチスラヴァなどの表記もある

いいだ人形劇センター 事務局長 **木田敬貴**

スロバキア共和国は1993年にチェコ共和国から分離独立し、首都のブラティスラヴァはオーストリアとハンガリーの国境近くにあります。人口はおよそ42万人。2011年3月にブラティスラヴァ世界絵本原画展が飯田市の川本喜八郎人形美術館と美術博物館の2会場で開催されたので（平塚、千葉、足利、浦和でも開催）、聞き覚えのある方も多いかと思います。

プラハと同様にブラティスラヴァにも国立の舞台芸術アカデミーがあります。そこの人形劇学科長イダ・フレディコーヴァさんに学内と卒業生の人形劇団を案内していただきました。

学生は俳優、美術、演出・ドラマトゥルク※に分かれ、それぞれ定員が8～10人、2～3人、1～4人。受験者の能力に応じて合格者の数が変わります。3年で修了し、その後の試験に合格すればさらに2年間高度な教育を受けることができます。ちょうど彼らが取り組んでいたカフカの『変身』と村上春樹の小説を組み合わせた作品の稽古を見学しました。人形劇の要素が様々な場面で散りばめられ、柔軟な若者の創造（想像）性に驚かされました。また廊下には彼らのアイデアに溢れた各公演のポスターがびっしり飾ってありました。

次にその卒業生が活動するブラティスラヴァで唯一の大人向けの専門人形劇団「デゾルゾヴァ人形劇場」を訪問。伝統を重んじたマリオネット作品が特長で、主にフェスティバルなどでの上演が中心です。アトリエには所狭しと置かれた人形たちが力強く存在していました。作品映像を見ると演出が凝っていて、古典作品をなぜ現代で上演するのかを、時折ユーモアやアイロニーを混ぜながら作られていました。

2020年はチェコ・スロバキアと日本の交流100周年の記念の年です。ぜひ、いいだ人形劇フェスタでもスロバキアの作品が見られないかなあと思っています。

学生が制作したポスターのひとつ

廊下に飾られた学生の公演ポスター

デゾルゾヴァ人形劇場のアトリエ。左から主宰者のジェイザ、ウニマ副会長のカレン夫妻、筆者

※ドラマトゥルクとは…
演劇の研究と現場を横断的に往復しながら、今日の舞台表現と社会を結びつける、演劇に特化したメディエーター（媒介者）、アートマネージャー。

WASEDA ONLINE 藤井慎太郎（早稲田大学文学学術院教授）「新しい演劇人<ドラマトゥルク>養成プログラム—未来のアートマネジメントに向けて—」から引用

第17回 すべての道は飯田へ通ず

飯田の方たちとの交流

人形劇チーム青空共和国 **山崎 素裕**

飯田に最初に来たのは大学の人形劇サークル1年生の時。宿泊先の浜井場小学校の円筒校舎に着き、「明日上演だから早く寝ること」という部長の指示をよそに、廊下でやっていた交流会に参加したのが最初の夜。以来、飯田に来れば、様々な人形劇が観劇できて、様々な人形劇人と交流できる、ということが魅力で36年間通い続けています。

中央通り4丁目の栄小路に2年前まであった居酒屋一平。大将の故西浦英夫さんに「お前ら毎年飲みくるけど、店があるから見られねえ」とカウンターで言われたのがきっかけで、店の奥の座敷で上演。その飲み仲間の今宮町入船寿司の社長山下正文さんにも、宴会場に常連客を呼んでの宴会つき観劇会を企画していただきました。この企画は一平では9年、入船寿司では8年続きました。

上久堅の上演では、当時の公民館主事の福沢さんに「フェスしか人形劇人が来ないのは人形劇の町と言えない」と言われ、翌年「火祭り」に参加し、北田遺跡の竪穴住居で上演させてもらいました。

これからも飯田の地元の方たちとの交流を楽しみに、飯田に通い続けたいと思います。

閉店前に復活した「一平」での上演

人形劇カーニバル当時の路上公演

次号は「人形劇団なみ」の はとうとおるさんです

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から㉘

「パンチ&ジュディ」のイギリス文化史

パンチ&ジュディは飯田のフェスタでも何度か上演された、英国では誰もが知っている人形劇だ。350年前のパンチの始まりからパンチの意義まで、パンチを取り巻く状況を具体的に描いた文章がとても興味深い。これを25年!という時間をかけて地道に翻訳をしてきた訳者は、自他ともに認める「強度のパンチ愛の持ち主」であり、巻頭の「はじめに」では日本におけるパンチ劇の関わりを綿密な調査で23頁に凝縮して、イギリス文化史研究者としての成果も見せている。つまり、この1冊で日英のパンチの全てが分かる、人形劇愛好者に必携の一冊なのだ。　　（人形劇の図書館館長・潟見英明）

ロバート・リーチ 著／岩田託子 訳
昭和堂 刊／2019

\突撃/ 人形劇のゲ・ン・バ Part 24 スペシャル!

人形制作・稽古に熱が入る人形劇講座

いいだ人形劇センターが開催している人形劇講座。2019年度は初級コース4グループ、中級コース3グループが参加し、作品づくりに励んでいます。講座開始から半年がたつグループは集大成となる成果発表に向けた稽古、人形制作に励むグループの様子をおさえるべく"ゲ・ン・バ"へ直行しました!

初級コース

初心者対象。作品選びから人形づくり、上演までを楽しく体験します

シアター奇望堂 今井 啓／起きろ! 3月成果発表

オリジナル脚本で一人芝居に挑戦。ある朝一つの部屋で起こる出来事を、主人公の身の回りの物を使っておもしろおかしく、時に切なく演じられるか…乞うご期待。

ころぽっくる／ももたろう

今夏初演予定

飯田養護学校高等部を卒業した仲間で結成。2018年度に制作した「一休さん」に続く2作目を昨年11月から制作開始。新メンバーが加わり、より活気のある講座になっています。

代田智之／なかよし

3月成果発表

飯田市の図書館司書が、図書館で行うお楽しみ会で人形劇を上演したいと一念発起。人形劇の定番「なかよし」をライオンのライタくん、ネコのニャンタくんで演じます。

水上穂乃花・友香／なかよし 11月講座終了

小3の女の子とお母さんの2人組。羊毛フェルトを使い、ふわふわしたアルパカの人形を制作。シーソーで飛んだり跳ねたり、元気いっぱいの「なかよし」を上演しました。

中級コース

飯田で創作活動ができるグループ・個人を対象に、新作づくりをサポート

人形劇すずらん／3びきのこぶた 1月成果発表

2017年度の初級コースに参加後、2年続けて新作づくりに挑戦しました。今回もメンバーの勢いと元気のよさが伝わる作品に仕上がってきました。

劇団ふたご座／伝統芸能 狂言より『ぶす』

12月講座終了

飯伊シニア大学で出会った仲間で結成し、2017年度から毎年講座に参加。12月の人形劇定期公演で成果発表後は1作目の作品に磨きをかけるため、再び講座に参加予定。

くまっこやー座／3匹のやぎのがらがらどん

今秋初演予定

2018年度初級コースに参加後、昨年10月から中級コースへ。初級で学んだことを生かし、人形づくりや演出などいろんなアイデアを持ち寄り制作しています。

これからの定期公演

人形劇講座参加者が次々に成果発表
市民劇団の上演もお楽しみに!

1月25日(土) 10時30分開演

- 飯田西中学校人形劇部
  The World／3度目の挑戦
- 人形劇すずらん／3びきのこぶた
- 慈光幼稚園
  人形劇クラブきらきら座／さるとかに

2月23日(祝) 10時30分開演

- 上久堅小10チャレンジ
  金のガチョウ
- ザ・スリーデイズマーケットシアター／
  みっかぼっちーと雪のお地蔵様

3月21日(土) 10時30分開演

- シアター奇望堂／起きろ!
- 代田智之／なかよし
- 田辺／「普通の生活」

いずれも会場は飯田人形劇場 料金200円

日本ウニマ通信 世界みてある記⑩

国際委員会 小栁 田美子

ユニークな「国際マイクロ・フェスティバル」

オランダのドルドレヒト市にあるダミエット人形劇場は、ダミエット・ヴァン・ダルサム氏が1967年に設立したキャパ40人の可愛い劇場です。一階が劇場・サロン・事務所、二階は応接サロン、三階がプライベートルームとなっており、美しい運河沿いにあります。

運河沿いのダミエット人形劇場。三角屋根の向かって右隣

私が最初に訪問した時はちょうど、市内の子どものお誕生会を兼ねた観劇会。ダミエット氏のお芝居を見終わったあと、お菓子をいただいて帰る楽しそうな場面でした。この劇場は、毎年秋に開催している「国際マイクロ・フェスティバル」のメーン会場でもあります。

このフェスティバルはユニークなスタイル。まず参加者は15人くらいの2グループに分かれ、先導に従い街を散策に出かけます。街の花々や、居並ぶウィンドウの品々を楽しみながらゾロゾロ歩き、まず一軒目。上演場所が民家の庭先やリビング、玄関フロアの時もあります。20～30分位の小品を楽しんだら、御礼を述べて、散策しながら二軒目、三軒目となります。この要領で三日間で12作品くらい観劇しているうちに地理もだんだんわかってくるという仕掛け。

ダミエット氏は美術家、演出家、俳優、プロデューサーでもあります。フェスティバルは観劇だけではなく、毎年テーマに沿った展示会も開催されますが、メーン会場のサロンの展示はクオリティが高く、ダミエット氏のセンス全開です。ファミリーと友人たち、隣り近所、街の人々、みんながこの小さな人形劇場とフェスティバルを支えています。

みなさま、ドルドレヒトにいらっしゃるなら、秋です。

ダミエット・ヴァン・ダルサム氏

「国際マイクロ・フェスティバル」のパンフレット

www.poppentheaterdamiet.nl